

わが街 Watching My Town Watching

天皇陛下から御下賜金を賜る

NPO法人田川ふれ愛義塾

1月25日、NPO法人田川ふれ愛義塾理事長の工藤良くどうりょうさんから関係者が市役所を訪れ、天皇陛下から下賜された御下賜金を披露しました。

御下賜金とは、社会福祉などの事業を行っている優良団体に対し、その事業を奨励するために下賜されるもの。今回、全国で初めてNPO法人が対象となりました。

田川ふれ愛義塾では、平成17年から家庭などでの居場所をなくした青少年を支援しており、現在、13～22歳の約20人が、共に生活しながら学校や社会への復帰を目指しています。

工藤さんは「目線を掘り下げ、子どもたちの背景をさまざまな角度から見るのが大切です」と話しました。



▲決意を新たにする工藤さん(右)と鎮西中学校教諭の山下晃司やましたこうじさん(左)



▲細部までこだわって制作した作品の横で笑顔の中村さん

磨き込んだ曲線の美しさ

全国高等学校総合文化祭に出展

2月1日、田川科学技術高等学校2年の中村椿なかもらつばきさんが市役所を訪れ、8月に長崎県で行われる「第37回全国高等学校総合文化祭」に、工芸作品「宇宙からのメッセージ [地球を守ろう!]」が出展されることを報告しました。

同校生徒の作品が全国高等学校総合文化祭に出展されるのは4年連続のこと。この作品は、「輪」というテーマのもと、3本の柱が中央に配置された球体を支え、人が星を支える姿をイメージ。デザインを含め約1年かけて完成しました。

中村さんは「いかに球体を丸くしていくか、そして土台の木目にもこだわりました。将来は建築デザインの仕事がしたいです」と笑顔で抱負を語りました。

寒さを吹き飛ばす力走

TAGAWAクロカン駅伝交流大会

1月27日、総合グラウンドで「TAGAWAクロカン駅伝交流大会」が開催され、5人で計8.2kmを走る駅伝の部と学年や性別ごとに1.6kmのコースを走る個人の部に、県内各地の小学生28チーム323人が参加しました。

参加した子どもたちは、時折雪がちらつく天気の中、起伏に富んだコースに苦しみながらも懸命に走り抜き、個人の部4年生男子では、田川RCの久富大輝ひさとみだいくん(金川小)が田川市の選手として初めての優勝を果たしました。

駅伝の部で1区を走った西田川ジュニアクラブの藤田望来ふじたのぞみくん(大藪小6年)は「きつかったけど、たすきをつなげられてよかった。楽しかったです」と満足そうに話しました。



▲駅伝の部では、気持ちを込めてたすきをつなぎました